清水会長と五百蔵安全環境対策本部長が現場パトロール実施

── 来年度以降も年２回継続実施 ──

日本埋立浚渫協会(埋浚協)は本年度からの新たな取り組みとして、会長と安全環境対策本部長による工事現場の安全パトロールを開始しました。清水琢三会長は平成28年11月に那覇空港滑走路増設工事の現場で、五百蔵良平安全環境対策本部長は同９月に茨城港常陸那珂港区廃棄物埋立護岸築造工事の現場で、それぞれパトロールを実施。会員会社の工事担当者から説明を受けながら安全対策の取り組み状況を確認しました。協会幹部による現場パトロールは、来年度以降も年２回のペースで継続的に実施していきます。

□ 現場パトロールは大きな意義ある □

清水会長は11月14日、那覇市で会長安全パトロールを実施し、那覇空港滑走路増設工事の現場を視察しました。パトロールにはお忙しい中、内閣府沖縄総合事務所の那覇港湾・空港整備事務所から坂井功所長、與那覇健次副所長、荒木幸宏那覇空港新滑走路整備推進室第一工事課長、當銘正秀同第三工事課長にもご参加いただきました。

護岸築造工事の様子

パトロールの対象は会員会社らが護岸築造や埋立工事を施工する三つの工区。冒頭、清水会長は「協会主催の会長・安全環境本部長による安全パトロールを本年度から開始した。海上工事は、気・海象条件に左右されやすく、潜水作業を伴うなど特有の課題も多い。これまでも安全最優先で企業活動に取り組んできたが、あらためて協会を挙げ安全活動を展開している」とあいさつ。

パトロールではまず、現場に隣接するホテルで安全協議会の活動状況や各工区での安全管理活動を工事関係者が説明。その後、那覇空港滑走路増設護岸Ｎ工区築造工事(若築建設・りんかい日産建設・大米建設JV)、同３工区埋立工事(第２次)(五洋建設･西松建設･國場組JV)、同２工区埋立工事(あおみ建設・熊谷組・丸尾建設JV)を視察しました。

安全協議会の資料によると那覇空港滑走路増設は現在、11件の関連工事が稼働しています。供用中の空港の隣接海域で安全に工事を行うため、平成26年１月の着工時から施工者らで構成する安全協議会を設置。全JVの関係者が毎日集まり、連絡調整会議を開いて安全管理の状況を確認・共有しています。

１時間半にわたって３現場で安全対策の状況を視察した後、清水会長は「護岸工事等の安全パトロールを実施したところ、現場の整理・整頓の状況は非常に良好であり、現場内の安全標識等の掲示物も数量・設置場所なども良好だった」と現場の取り組みを評価。「施工者が安全協議会を設置し、横の連携を図りながら工事を順調に進ちょくさせている。一つの現場のように運営されていることは安全にもつながる。安全協議会をますます機能させ、残りの工期を無事故、無災害となるよう工事を実施してほしい」とも述べました。また毛利茂樹副会長は「大型現場で船舶や重機、車両が錯綜(さくそう)している。事前調整に万全を期し、特にダンプの

工事担当者から現場で説明を受ける清水会長

往来誘導には気を配ってほしい」と講評しました。

清水会長は、協会本部による現場パトロールの実施について「(各社の経営幹部が)他社の現場を見られる機会は滅多にない。今後の協会活動を考える上で現場パトロールは大きな意義がある」と語り、7月の安全週間や毎年秋に行っている地方整備局等との意見交換などの機会を生かし、安全パトロールを継続する意向を示しました。

□ 安全対策の情報発信が不可欠 □

五百蔵安全環境対策本部長は9月14日、茨城港常陸那珂港区で会員企業が施工中の廃棄物埋立護岸築造工事の現場をパトロールしました。東京電力の常陸那珂火力発電所から発生する石炭灰の次期処分場(56ha)を構築する工事の一環で、国土交通省関東地方整備局が発注した三つの工区を対象に実施。埋浚協の理事らと共に、現場の安全設備や作業状況を確認しました。

パトロールしたのは▽茨城港常陸那珂港区中央ふ頭地区廃棄物埋立護岸築造工事(五洋建設・みらい建設工業JV)▽茨城港常陸那珂港区中央ふ頭地区廃棄物埋立護岸築造工事(その2)(東洋建設・株木建設・りんかい日産建設JV)▽茨城港常陸那珂港区中央ふ頭地区廃棄物埋立護岸築造工事(その3)(東亜建設工業・若築建設・本間組JV)の3現場。鋼板セル式の護岸で、3工区合わせて72函のセルを使用。1函当たり、高さ21～26m、直径21m、重量190～250tの規模で、陸上の製作ヤードで組み立てた後、1,400tの起重機船を使って海底に据え付けています。

冒頭、五百蔵本部長は「海上工事の安全環境対策をより充実させるため、従来の取り組みに加え、本年度から会長パトロールと安全環境対策本部長パトロールを追加した。3工区合わせると、毎日300人以上が従事している現場。各JVの作業が錯綜する中での連絡・調整体制なども勉強したい」とあいさつしました。

各工区の現場代理人が工事概要や現場の安全対策を説明した後、五百蔵本部長が3工区で共用している作業船について、株木雅浩理事が重機のメンテナンスや作業手順についてそれぞれ質問しました。海象の影響で当日は海上作業が行われず、パトロールでは、陸上で進められている鋼板セルの製作作業や組み上げられた鋼板セルなどを順番に視察しました。

講評では「整理・整頓されていた」(藤野和憲理事)、「これから佳境。緊密に連携してほしい」(五関淳理事)、「安全な稼働を続けてほしい」(山口竹彦理事)、「工期が長いので途中で安全対策の改善も必要」(福田功専務理事)などの意見が出されました。

各理事の講評を受け五百蔵本部長は「めりはりのある安全対策ができていた」と総括。また「業界の将来を担う人材を確保するには、安全対策に万全を期している現場の情報を積極的に発信し、学生やその両親に知ってもらうことも大切だ」とし、広報活動の充実が必要との考えも示しました。パトロールの結果は国土交通省関東地方整備局の三浦孝一港湾空港部工事安全推進官、工藤浩鹿島港湾空港整備事務所茨城港出張所長に報告しました。

安全対策の説明を聞く五百蔵本部長